



平成24年
1月

撮影地：鏡野町恩原湖

コメント：静かな湖畔です。最近では雪も乏しくなりました。（吉井外科医院 吉井康哲先生）

〈赤磐医師会病院基本理念〉

- ❁ 心のかよう、温かみのある医療の提供に努めます。
- ❁ 安全で質の高い医療を提供し、信頼される病院を目指します。
- ❁ かかりつけ医と連携を深め、地域と共にある病院を目指します。





新年挨拶



赤磐医師会会長 滝澤 貴昭

あけましておめでとうございます。

地域住民の皆様方の医療・健康管理のために尽力してまいりました赤磐医師会病院は、今年の3月1日をもちまして30年という節目を迎えることとなります。また岡山県知事から地域医療支援病院に認定されてから8年目となります。赤磐・東備地域において不可欠な病院としての責任を果たすべく、病院職員ならびに医師会員一同が力を結集してまいりましたが、今後一層、住民の皆様にご満足と安心を感じていただける病院となれるよう努力を重ねてまいりたいと存じます。

具体的には、脳卒中や骨折患者が、急性期医療機関から自宅に帰られる橋渡しとしてのリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病棟の増築と、理学療法・作業療法・言語嚥下療法などを専門とするスタッフおよび設備の充実を予定しています。これにより急性期病棟にも余裕が生まれ、救急患者様の受け入れも、より柔軟に対応できるようになると期待しています。また、懸念される新型インフルエンザなどに対応する特殊外来や、特殊病室の整備なども計画しています。

医師・看護師・リハビリスタッフなども大幅に増員が予定されていますので、住民の皆様のご子息・ご親戚などに医療関係者がおられましたら、ぜひ、新しく生まれ変わる医師会病院において、地域のために活躍していただくことを選択肢の一つとしてご提案いただければ幸いです。

また、増築・改築などハード面についてはもちろん、職員の接遇などにつきましても、忌憚のないご意見を頂戴できれば今後の病院改革につなげていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



赤磐医師会病院院長 川口 憲二

明けましておめでとうございます。

新年を迎えご挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災と福島原発事故という、未曾有の災害に直面したことはまだ記憶に新しく、医療現場でも早期の復興・復旧が待たれるところです。ひるがえって当地域は、瀬戸内の内陸部に位置している関係から、このようなリスクは比較的少ないと思われます。

災害に備えた施設作りを目指して、来年度以降に予定されている病棟の増改築計画にあたっては、耐震性にも十分に配慮し透析をはじめ各医療の現場でも防災システムを構築していきたいと考えています。

目下、当院は「公益社団法人」格を申請すべく準備中で、これが認可されれば、これまで以上に経営の透明性、業務の公共性が問われることとなり、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院、救急告知病院等をはじめとした事業をさらに展開していくことが期待されています。このためにも、医師会ならびに登録医の諸先生方、そして地元の行政とも連携をより強化して、充実した地域医療、ことに高齢者の方々への医療サービスを提供していきたいと考えますので、引き続き地域の皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年が、皆様方にとりよい年でありますことを願い、年頭の挨拶といたします。

写真の楽しみ



吉井外科医院 吉井 康 哲

明けましておめでとうございます。

本年も引き続き当誌の表紙写真を提供させていただきます。

趣味として、私が写真を始めたのは開業して約20年たった1999年の春

になります。なぜ写真を？とよく聞かれます。その頃の

自分の心にいくらか揺れがあったのか、あるいは一人娘が遠くに嫁いで行くその寂しさからだったのか、定かではありません。たまたま娘が隔月誌『風景写真』を買ってきていて、その号に特集で掲載されている前田真三の作品群に見入っている内に惹きつけられてしまったのは確かです。

写真を始めたものの病床を抱えているので、当初は活動範囲を職場から30分以内と限らざるを得ず、主な被写体は自宅の庭に咲く花でした。その後長男が稼業を手伝うようになり、次第に活動範囲が広がり大きな風景が撮れるようになりました。

写真活動にはたくさんの楽しみがあります。まず明日はどこに行き、どんな瞬間があるのだろうかという前夜の期待と不安。次に、撮影地までの往復の間、ドラマチックに変貌する自然風景の美しさに接する楽しみ。その夜疲れて眠りに就く時からフィルムが返ってくるまでの数日間の期待と不安。返ってきたフィルムの中からこれと思う一枚を探し出す楽しみ（ないときの落胆も大きいのですが）。そしてそれをスキャン・プリントし職場の廊下に飾り、たくさんの人々に見ていただく楽しみ。等々。

読書とか音楽鑑賞なども個人的になくはない趣味ですが、写真は見ていただく人々との間のコミュニケーション・ツールとして実に有効なものと感じています。作品を見ていただいた患者さんから「癒されます」「楽しみにしています」などの言葉をいただくのが何よりもの喜びです。

昨年末、赤磐医師会病院内の常設展示の作品数を増やすようにとのお話をいただいたこと、感謝しています。今後ともよろしく願いいたします。



がんのリハビリテーション研修会に参加してきました

平成23年10月8～9日の2日間、広島女学院大学に於いて第6回がんのリハビリテーション研修会が開催されました。この研修会は参加資格を得ることが困難でありましたが、この度、やっとの思いで参加することが出来ました。がんのリハビリテーションのスキルアップを目指し、他職種含め医師、看護師、理学療法士、作業療法士4名のチームで参加しました。

整形外科医長 片山 信昭

近年、医療技術の進歩もあり、がんの死亡率は減少し、5年生存率も改善してきており、がんは不治の病の時代から、共存する時代になってきたと言われています。

がん対策基本法に基づき、がん医療は推進されており、昨年度から保険診療にがん患者リハビリテーションも追加されました。

当院もこの10月に厚労省主催のがんリハビリテーションの研修会に参加してきました。

がんのリハビリは予防、回復を目的とした周術期のリハビリから、患者さんのQOL（生活の質）を高めるための緩和ケア、終末期のリハビリまで多岐にわたります。

がんのリハビリは決して独立してあるのではなく、手術、化学療法、放射線療法あるいは緩和ケアなどの治療と平行して行われます。

大事なのは人生を左右するがんという病気にかかった患者さんにできる限り満足のいく医療を提供するために、主治医、リハビリ医、看護師、療法士、ケースワーカーそして患者さん、ご家族も含めしっかりとコミュニケーションをとりながら治療を行っていくことであると感じています。

今回の研修をきっかけに、当院でも今後のがん医療をさらに充実させていきたいと思っています。

看護師 青山 洋子

研修前、がんリハビリテーションとはがんの患者の残存機能を生かす為に行うリハビリテーションのことと漠然と捉えていました。研修を終えて患者さんの疼痛管理に加えて骨への転移による骨折、骨髄抑制、血栓症のリスク管理を行いながらのリハビリテーションは医療職としての観察力と医師、看護師、理学療法士、作業療法士などの職種間の情報共有が欠かせないと感じました。

私たちは、患者さんの残された期間がたとえわずかでも患者さんや家族が望む生活を過ごしていただきたいと考えています。その望みに沿えるようにADLを維持または拡大させていくがんリハビリテーションは、それぞれの職種がそれぞれの立場から患者さんを見守り、観察し、意見を交換し、そしてスタッフ全員が一貫した態度で患者さんへ働きかけていく、チームで連携を取りながら行っていくリハビリテーションであると思いました。

リハビリテーション科 理学療法士 **山田 奈美**

講義、グループワーク、事例に基づいたミニカンファレンスなど2日間充実した内容の研修会でした。当院でがんの患者さんのリハビリテーションを実施する機会はありませんでしたが、「リスク管理をしながら、なんとなく…運動しよう。廃用性を予防しよう、歩こう。傾聴しよう。」という感じでリハビリテーションを実施してきました。研修会で行ったグループワークでは、がんのリハビリテーションの問題点について話し合いました。その中で上位にあがってきたことは、他部門との連携・地域医療の連携・カンファレンス開催が不十分であるということでした。この事は、がんのリハビリテーションに限らず、リハビリテーションを実施する上で重要なことであると再認識しました。又、患者さんとのコミュニケーションについて、傾聴して患者さんの訴えを聞き出すことが重要であると学びました。チームとして働きかけることにより、患者さんにより安全・安心の医療を提供できるように頑張っていきたいと思います。反省点として、がんについての基礎知識が足りない点でした。

今後の課題としては、研修会の開催、現場のハード面についても検討していきたいと思いました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

リハビリテーション科 作業療法士 **野尻 亜由美**

がんリハビリテーションという内容の研修会に初めて参加させて頂き、がん患者さんへの病期別の目的を学び、必要度や難しさを痛感しました。

今までも、廃用症候群の病名でリハビリに取り組んでいましたが、痛みや疲労感の強い方からは拒否されることが多く、十分なことが出来ていませんでした。患者さんの「病状・合併症」「身体的苦痛」「喪失感」などに対する知識不足と、他部門とのコミュニケーション不足が原因だと感じました。また、患者さんの感情が表出された時のコミュニケーションも、何を言っているかわからず信頼関係を築くことが出来ていなかったと思います。思いやりの「こころ」を伝えるコミュニケーションスキルも教えて頂いたので、会話の中で取り入れていきたいと思います。

職種間の情報交換を密に行い、患者さんの希望に添えるリハビリテーションを提供できるよう努力していきたいと思います。



材料（1人分）

帆立貝柱 40g
海老 20g
生クリーム 10g
卵 8g
塩 1g
コショウ 0.01g
白ワインか酒（臭み消し、分量外）

<銀あん>

出し汁 40g
みりん 1.5g
酒 0.3g
薄口醤油 1.5g
水溶き片栗粉 適量
イタリアンパセリ 適量

貝柱と海老のフラン

<1人分> エネルギー122kcal・たんぱく質12.8g

<作り方・ポイント>

- ①背わたを取った海老と帆立に白ワインを振り20～30分冷蔵庫に入れて置く（臭みを消す為）。
- ②フードカッターに帆立、海老、卵、塩、コショウを入れ滑らかになるまで回し、最後に生クリームを入れ軽く回す。
- ③生地をしぼり袋に入れ器に絞り入れ、蒸し器で10～15分蒸し銀あんをかける。



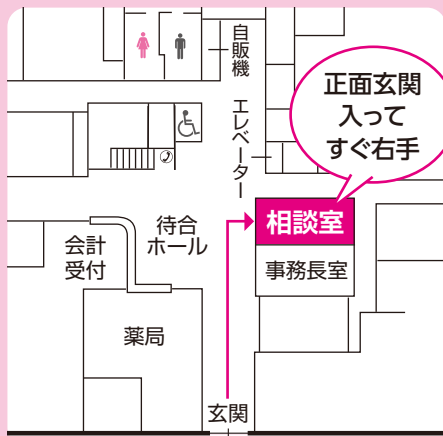
<銀あんの作り方>

- ①出し汁、みりん、酒、薄口醤油で、味を整え火にかけ、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ②イタリアンパセリをミキサーにかけ飾る。

*寒くなってきました。今回は帆立貝柱と海老を使った柔らかい蒸し物をご紹介します。どなたでも召し上げていただける喉越しの良い1品です。

赤磐医師会病院 栄養科 A.P.N.cibu レシピ集より

地域医療連携室のご案内



受付時間

平日（月～金） 8：30～17：00

- ◆入院中の不安や、退院後の生活が不安…
- ◆家での介護が不安…
- ◆社会保険や福祉制度について知りたい
- ◆病気のことについて知りたい
- ◆医療費に関することが知りたい



医療ソーシャルワーカーがお話をお聞きます！

- 福祉制度やサービスの紹介、近隣の施設の紹介をさせていただきます。（青山・脇坂・道越・中川）

どうぞお気軽にご相談下さい!!



地域医療支援病院 赤磐医師会病院

〒709-0816 岡山県赤磐市下市187-1

TEL 086-955-6688（代） FAX 086-955-4946

E-mail: akaiwahp@gamma.ocn.ne.jp HP <http://www.akaiwa-mah.jp/>

発行日 平成24年1月15日

